

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600058	事業の開始年月日	平成18年10月1日
		指定年月日	平成18年10月1日
法人名	株式会社ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜飯田北 I		
所在地	(〒245-0018) 神奈川県横浜市泉区上飯田町3795-9		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成30年10月23日	評価結果 市町村受理日	平成31年2月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・認知症の理解に努め、「その方らしい」「あたり前の生活」の支援に努めています。
- ・「虐待防止委員会」を開催し、「尊厳」を重視した「適切な認知症介護」に取り組んでいます。
- ・地域カラーを活かした食事レクを行っています。
- ・職員がやりがいを感じ、働きやすい職場環境作りに取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成30年11月22日	評価機関 評価決定日	平成30年12月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の概要】 この事業所は、相鉄いずみ野線いずみ野駅からバスで約8分、バス停から徒歩約5分の、住宅団地や農地、学校が点在する田園地帯に位置し、木造2階建ての2ユニットのグループホームである。隣接して同じ法人の運営するグループホームがあり、運営推進会議や防災訓練、事業所の夏祭り、ボランティアのイベントや茶話会などを合同で開催し、双方の利用者や職員が交流している。</p> <p>【理念の周知・徹底】 地域には様々な国籍の人が住宅団地などに居住しており、外国出身の職員の採用が増えている。管理者は、「必要な人に必要なサービスの提供を」というコンパクトで覚えやすい法人理念をサービスの基本とし、職員には、事業所理念を分かりやすく説明し、その実践に努めている。</p> <p>【職場環境の整備】 管理者は、言語や習慣が異なる人同士の、コミュニケーションや融和を図ることに重点を置いている。日頃から分け隔てなく職員が意見や要望を言いやすいように計らい、職員の様子に気を配って、悩みや相談を聴きとっている。職員同士が互いの良い点を評価するアンケートを実施し、集計して評価の高い職員を表彰する制度を実施するなどして、職員が良い関係を保ち、平等で働きやすい環境を整える努力をしている。外国出身の職員が、利用者にも職員にも明るく接し、きめ細かく気配りしてサービスを提供しているのが見て取れた。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	みんなの家・横浜飯田北 I
ユニット名	1U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	みんなの家・横浜飯田北 I
ユニット名	2U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様が地域資源を活用し、ありのままのあたり前の生活が営めるよう、積極的に行事に参加しています。	「必要な人に必要なサービスの提供を」という法人理念は、分かりやすく覚えやすいこともあり、職員に浸透し馴染んでいる。職員は、利用者の様子を見て、その人が日々を楽しく暮らため、ADL改善のため、必要なことは何か、などを把握して、支援を行っている。管理者は、開設以来の事業所理念を、職員と話し合いながら、現状に即したものに作り直したいと考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域行事の参加、資源ゴミ回収の協力をさせていただいています。また、事業所の行事にお招きしたり、日常の散歩などを通して地域の方たちと触れ合う機会を作っています。	町内会に加入し、近隣の寺に初詣に出かけたり、盆踊りなどに参加している。隣接した小学校の運動会に招待され見学している。中学校の福祉体験学習を受け入れている。紙芝居や歌唱、朗読を行う「もちもち文庫」、ハーモニカ演奏、日本舞踊などのボランティアが定期的に来訪し、ホームの夏祭りには地域住民が来訪して、利用者とは交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の福祉体験学習の受け入れを行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	概ね2か月に1回、町内会役員、地域民生委員、地域ケアプラザ担当者を交え、事業所の取り組みや活動内容についての報告を行い、ご意見やご提案をサービス向上に反映させています。	運営推進会議は、隣の飯田北Ⅱホームと合同で年6回開催している。構成メンバーは、町内会役員、民生委員、地域包括支援センター職員、Ⅰ・Ⅱホーム管理者、泉区高齢・障害支援課職員などである。活動内容やヒヤリハット、事故報告などのほか、地域情報の交換をしている。町内会回覧板で、職員募集の広告をした際に、文字が小さく内容がわかりにくいとの助言をもらい、改善に務めている。	運営推進会議は、議事内容が充実しています。今後は、家族に呼びかけて参加を得て、運営状況や地域情報を共有することを期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	横浜市健康福祉局生活福祉部の相談員の方とコミュニケーションをとり、上飯田の地域がらを活かした取組について話合っています。	泉区の高齢・障害支援課の職員とは運営推進会議出席の際に情報交換をしている。生活支援課は生活保護費受給者の面接時に現状報告などを行っている。横浜高齢者グループホーム連絡会の泉・戸塚ブロックに所属し、食事介助などの研修に参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月「身体拘束廃止委員会」を行い、束縛のないその方らしい生活支援について検討し実践しています。	身体拘束廃止委員会を設置し、身体拘束禁止指針を制定している。毎月、委員会を開催し、利用者をリビングに座ったままにしておくことが、適正かどうかを検討し評価している。玄関やユニット入口は、家族に説明し施錠している。玄関は、利用者が開けようとした場合、職員と一緒に出かけたか、気をそらすような声かけをして無理な制止はしていない。ユニットは、利用者が落ち着いていたり、職員の見守りが可能なときは開放している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の「虐待防止委員会」では、尊厳を重視した適切な認知症介護を理解し取り組むことで、拘束や虐待のない事業所作りを努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修を受講して学ぶ機会をいただき、そこで得た知識、情報については毎月の職員会議で共有を図っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約前の実態調査では、できるだけ時間をかけサービスについてのご説明を行うとともに、ご家族様の疑問やご要望についてお伺いし、信頼関係を築くよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	概ね2か月に1回の「家族会」以外に、年に1～2回アンケートを送付し、ご家族様の不安やご希望、ホームに対するご意見を伺うようにしています。	利用者の日頃の様子やイベントの様子を撮影して事業所内に掲示している。毎月送る「飯田北 I 通信」には、利用者ごとに状況を知らせるなどして、情報提供をしている。家族の来訪時や家族会では、意見や要望、苦情などを聴きとっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の全体会議の他、各ユニットの職員会議で職員の意見や提案を聞く機会を作る他、申し送りノートを作り、風通しの良い環境作りを行っています。	管理者は職員との意思の疎通、職員同士のコミュニケーションの充実を図り、全体会議やユニット会議は、職員が意見や提案を言いやすいように運営している。日常の勤務中でも職員の意向や要望を聞き取り、運営やサービスに反映させることに努めている。職員の提案で、食事レクリエーションとして、イベントの際に利用者と一緒に餃子やお焼きを作って提供している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で行っているGST (Good Servise Thanks)カードの他、事業所内でホーム内表彰を行い、些細なことでも努力や尽力された職員の表彰を行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で行っている各種研修の他、外部研修の案内、ホーム内でのミニ研修の機会を作る事で、やりがいやスキルアップに繋げるよう取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に加入し、情報の共有を図っています。また、地域にあるグループホームとの情報交換も行っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の実態調査では、ご家族様だけでなくご本人様のお話を傾聴することに重きをおいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査、ご契約、ご面会などの時間と機会を利用し、コミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「ういず治療院」によるリハビリマッサージや、「シニアセラピー」の利用、通院のご家族負担を考慮したヘルパー利用のご提案をさせていただいています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や食器後片付けなど、日常の家事手伝いをお願いすることで、共に生活する中での役割分担を図っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お送りしている「一言通信」で、利用者様の日常のご様子をわかりやすくお伝えしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、ご友人や遠方のご親戚が来所された際は、居室のプライベートに配慮された中で談笑できる環境を提供しています。	現状では、重度化が進んだり入居前は独居生活が続いたりして、馴染みの場所や店を思い出せない人や認識できないケースが多い。職員は、懐かしい故郷の思い出話や昔なじみの話を引き出して、想いを共有している。家族が来訪した際には、連れだって外出に出かける方もいる。乳酸飲料やパンの訪問販売が定期的に訪れ、馴染みの関係になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1、2F合同のレクリエーションや、1Fテラスを利用した外気浴、レクリエーションを通じて交流の機会を増やしています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご退居時にホームでの行事の際のお写真等をお送りしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入浴や散歩の時間を利用し、利用者様のお話を傾聴し、思いをくみ取るよう努めています。また、定期的なカンファレンスで職員の気づきを共有しています。	アセスメントで、利用者・家族の意向や希望を把握している。日頃から、利用者とのコミュニケーションを密にして、会話や仕草、表情を見て意向や想いを汲み取っている。把握した情報は、生活記録に記載し、会議で話し合っ共有している。送迎付きの中華料理店で外食した際、もう一度行きたいという希望があり実施する予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時に作成する「入居者情報」を元に、その方の生活歴、志向を探り、介護サービス計画に反映しています。また、ご家族様から伺うお話は貴重な情報となっています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援に携わる職員の気づきが大切な情報となっています。また、医療連携看護師と常に利用者様の状態を共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけでなく、介護職員、医療連携看護師、訪問診療医師、看護師と連携し、利用者様個々に適したサービスが提供できるよう介護計画を作成しています。	介護計画は、利用者のニーズや課題を把握し、短期目標に沿った具体的な歩行訓練や生活リハビリなどを、細かく設定している。計画の具体的なサービス内容に沿った実施状況は、個別の生活記録に記載している。毎月カンファレンスを行い、職員が話し合っって利用者ごとにモニタリングを実施している。担当者会議には家族や看護師が参加している。計画の見直しは、通常は6か月、状況の急変の際は随時実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に実践のナンバリングをし、カンファレンスの中で必要なサービスを見極めるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出が困難な方も多いため、訪問販売の利用や訪問理美容の提供、専門医（皮膚科、泌尿器科）の往診を受けていただいています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れや、地域作物の購入を実施し、地域の中での生活が構築できるよう努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご契約時に協力医療機関である内科、歯科の訪問診療の同意書をいただいています。内科訪問診療については、内科担当看護師と、医療連携看護師との連携を確立しています。	連携内科医の往診が原則月2回であるが、生活保護制度利用者には3回往診している。訪問看護師が毎週訪問して健康管理をしている。医師、看護師共24時間オンコール体制である。歯科医は週1回往診している。家族が通院同行した場合は、家族から「通院・入院・退院報告書」のコピーを受け取り、個人ファイルに綴じて、診療情報を職員や看護師で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「訪問看護連絡帳」を利用し、介護職員と連携看護師の情報共有、ケアのアドバイス等が柔軟に行える関係を築いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療医である横浜甞生病院と協力体制を築いています。また、他医療機関であっても、週1回はお見舞いまたはご家族様から状況をお伺いし、状態把握と早期退院に取り組んでいます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医である横浜甞生病院、医療連携看護師と利用者様の終末についての判断と支援の方向性を共有し、ご家族様にご相談させていただいています。	入居時に、「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明して同意を得ている。医師が、終末期と判断した場合は、家族、医師、管理者が話し合って意向を確認し、家族から「看取り介護 および加算についての同意書」を受け取っている。職員は、看取りに関する研修を受け、看護師や管理者から、利用者毎の看取り介護に必要な情報を渡され、説明を受けている。現在、2名の看取り介護を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様急変時のフローや対応についてを掲示しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の緊急時避難訓練の他、地域の防災訓練に参加させていただいています。また、隣接するみんなの家・横浜飯田北IIとの協力体制も築いています。	防災訓練は消防署立会いの下、利用者も参加して年2回行っている。1回目は隣の「横浜飯田北II」と合同で火災想定訓練、2回目は夜間想定火災避難訓練を実施している。訓練後に消防署から、寝たきりの方の移動方法や、窓をたたいて火災発生を知らせるなどのアドバイスを受けた。災害備蓄は、本社給食部が飲料水や食料品をリストで管理している。カセットコンロなどの備品も保有している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「虐待防止委員会」を通して、適切な認知症介護について学びを深め、利用者様が安心して安楽に感じる言葉かけに取り組んでいます。	職員は出勤時に、1階事務室に掲示している、法人の高齢者虐待の禁止に関わる注意点を読み上げ、指定の箇所に捺印している。個人の人格の尊重に基づき、声かけの仕方や誘導には気を配っている。トイレや入浴についてあからさまな声かけはせず、一緒に行きましょうと廊下を誘導し、さりげなく目的の場所に案内している。個人情報を含む書類は、施錠できる書棚に保管している。	リビング内で使用する記録類については、他の利用者やご家族の目に触れる可能性も考慮して、利用者名を、イニシャルで表記するなど、個人のプライバシーに配慮することを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や就寝介助など、利用者様と1対1になる時間を利用し、利用者様本位の生活支援を探っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールを決めることなく、その日その日の利用者様の状態、お顔色を読み取る様努め、望まれる過ごし方が提供できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類はできる限りご本人に選んでいただいています。また、帽子やスカーフなどの小物に気を遣ったり、明るい色をお勧めしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューを掲示し、食欲に繋げる工夫をしています。食欲のない方には無理強いせず、「食事量」ではなく「おいしく」「楽しく」食べることを意識しています。	食事は、法人給食部の管理栄養士が作成したメニューに基づき、配達された食材を調理専門職員が調理して提供している。ほとんどの利用者が、座位をとってテーブルで食べていた。職員が、スプーンの持ち手の角度を変えるなど食べやすく工夫した自助具を使って食べる方もいた。外食や出前を楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるように、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食部の管理栄養士が献立を作成しています。また、器や形状の工夫も行い、必要に応じて支援計画に反映しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員の利用者様に口腔ケアの仕上げ介助を行っています。口腔ケアを嫌う方には、受け入れやすい声かけを支援計画に盛り込んでいます。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的なトイレ声かけや誘導を行っています。しかしながら立位をとること、トイレで排泄することに大きく負担を感じている方には無理強いしない支援もを行っています。	トイレの清掃は職員が行い、清潔である。排泄チェック表を活用し、タイミングを見計らって、さりげない声かけや誘導を行っている。日中は、できるだけトイレで排泄するよう支援している。夜間は定時に起こすことはなく、個々の状況に合わせておむつを交換し、朝まで眠った方は、起床時に下腹部の洗浄を行っている。自力でトイレに行く方は見守りや同行をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に頼るだけでなく、十分な水分補給と適度な運動の提供に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は固定していません。無理強いはしませんが、定期的な入浴が提供できるようチェック表を作成しています。また、2Fの利用者様も可能な範囲で1Fのリフト浴をご利用いただいています。	原則として、週に2回、3人ずつ午前か午後に入浴している。体調に応じて清拭やシャワー浴を併用している。浴槽の湯は足し湯でかけ流している。1階にはリフト浴があり、必要に応じて2階の方も利用している。浴室には暖房器具が設置されヒートショックを防止している。皮膚疾患やアレルギーの方もいるので、浴槽には刺激のあるものは入れていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「活動」だけでなく、「休息」も必要な支援と捉えています。就寝時はパジャマ更衣していただいたり、必要に応じて更衣や清拭、陰洗を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療連携看護師、連携薬局の薬剤師と連携し、服薬支援を行っています。服薬は確実に安全であるようその方に応じて工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	月に3回の訪問販売（ヤクルト、パン）は皆様大変楽しみにされています。ベランダやテラスでの外気浴は日課になっています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域行事（お祭り、運動会等）の参加や、年1回外食レクの機会を作っています。	天候が良ければ事業所の周辺を散歩に出かけている。体調によっては、1階のウッドデッキで外気浴や日光浴をしている。歩行可能な方は、下肢の機能に応じて、近隣の野菜無料販売所に買いものに出かけることもある。車椅子の方は、職員が付き添ってやや遠方の店舗に出かけている。年間計画に組み込んで、初詣、花見、小学校の運動会見学、外食などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所、ご家族様で行っていますが、欲しい物が購入できるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在のところ、電話や手紙のやりとりを希望される方はいらっしゃいません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの作品を制作していただき、共有スペースを飾らせていただいています。 またTVが付けっ放しにならないよう、状況に応じてなじみ深い音楽のCDをかけたりしています。	共有空間は清掃が行き届き、バリアフリー構造で、廊下や居室入り口は、車椅子の走行に十分な幅がある。リビングは、広く窓が大きく採光がよく明るい。利用者や職員が作った季節を感じる切り紙細工やイベントの写真などが掲示してある。一角にある厨房では、調理や配膳を行っている。1階には広いウッドデッキが設置され、日光浴やお茶飲み会など多目的に利用できる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベランダやテラスは利用者様同士の社交場になっています。 (横浜飯田北Ⅱも含め)		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお仏壇をお持ちになる方もいらっしゃいます。 また、行事の際に差し上げた表彰状や感謝状などを飾り、楽しかった思いを心にとどめていただけるよう努めています。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備、防炎カーテン、整理ダンス、ベッド、洗面台が常備されている。利用者は、寝具や衣類、テレビ、家族の写真などを持ち込んだり、転倒時に備えて緩衝マットを敷いたりして、それぞれに住み心地良くしつらえている。居室担当者が、衣類入れ替えや清掃などを支援して、整理整頓が行き届いている。表札は、大きな文字で分かりやすい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に障害物がないよう気を配り、利用者様が安全に移動できるように努めています。後ろから名を呼ぶのではなく、歩かれています方に寄り添う支援に努めています。		

目標達成計画

事業所名 みんなの家・横浜飯田北Ⅰ

作成日 平成31年2月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議におけるご家族様の出席	運営推進会議のご家族様参加を促進し、運営状況、地域情報を共有する。	参加しやすい日程を設定し、ご家族様に参加をお願いする。 毎月送付している「一言通信」で、運営推進会議の意義などをわかりやすくご説明した文書をお送りする。	参加まで 6か月
2	36	リビング内で使用する記録類のプライバシーに配慮した扱い	個人情報の重要性を職員に周知、再確認し、記録類の慎重な扱いに留意する。	個人情報に基づき記録類の扱いについて、職員会議で話し合う。 職員以外が目にする可能性がある場所では、利用者様のお名前はイニシャルにするよう徹底する。	3月末
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。